

眼 科 学

1 構 成 員

	平成11年3月31日現在	平成12年3月31日現在 1人
助教授	1人	1人
講師（うち病院籍）	2人 (2人)	1人 (1人)
助手（うち病院籍）	6人 (3人)	5人 (2人)
医員	4人	4人
研修医	5人	5人
大学院学生（うち他講座から）	0人 (人)	1人 (0人)
研究生	0人	0人
外国人客員研究員	0人	0人
技官	1人	1人
その他（技術補佐員等）	0人	0人
合計	20人	19人

非常勤講師	0人	0人
-------	----	----

2 教官の異動状況

渡邊 郁緒（教授）（期間中現職）
 加藤 勝（助教授）（期間中現職）
 永田 豊文（講師）（～H11.12.31辞職）
 青沼 秀実（講師）（期間中現職）
 町田 拓幸（助手）（期間中現職）
 中神 哲司（助手）（期間中現職）
 増田 光司（助手）（～H12. 3.31辞職）
 久保田滋之（助手）（～H11. 6.31辞職）
 畑 徳昌（助手）（H11. 4. 1～現職）
 伊藤 浩一（助手）（H11.11.1～現職）

3 研究業績

	平成10年度		平成11年度	
原著論文数 (うち邦文のもの)	7編	(4編)	6編	(3編)
そのインパクトファクター合計	4.27		1.26	
論文形式のプロシーディングズ数	0編		0編	
総説数 (うち邦文のもの)	1編	(1編)	4編	(4編)
そのインパクトファクター合計	0		0	
著書数 (うち邦文のもの)	0編	(編)	0編	(編)
症例報告数 (うち邦文のもの)	1編	(0編)	3編	(3編)
国際学会発表数	0編		2編	

(1) 原著論文 (当該教室所属の人全部に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nagata T, Minakata A, Watanabe I (1998) Adhesiveness of Acry Sof to a collagen film. J Cataract Refractive Surg 24: 367-370.
2. Nakagami T, Murakami A, Okisaka S, Ebihara N (1999) Mast Cell in Pterygium: Number and Phenotype. Jpn J Ophthalmol 43: 75-79.
3. Aonuma H, Yamazaki R, Watanabe I (1999) Retinal cell death by light damage. Jpn J Ophthalmol 43: 171-179.
4. Nakagami T, Watanabe I, Murakami A, Okisaka S, Ebihara N (2000) Expression of stem cell factor in pterygium. Jpn J Ophthalmol 44: 193-197.
5. 中神哲司, 村上 晶, 沖坂重邦 (1998) 翼状片と肥満細胞-翼状片の肥満細胞では塩基性線維芽細胞増殖因子の発現が亢進している-. 日眼誌 102: 300-306.
6. 川村洋行, 徳田波津美 (1998) 精神発達遅滞児の発達年齢と視力の発達. 眼臨92(7): 973-976, 1998.
7. 永田豊文, 久保田滋之 (1998) 眼内レンズ挿入模型眼における色収差の観察. IOL & RS 12(4): 245-248.
8. 永田豊文, 久保田滋之, 渡邊郁緒 (1999) ピギーバック眼内レンズ挿入眼の光学特性. IOL & RS 13(2): 86-91, 1999.
9. 青沼秀実 (1999) 浜松医科大学とその関連病院における白内障手術後眼内炎. 臨眼 53: 815-818,.

インパクトファクターの合計 小計 10年度 [1.56] 11年度 [1.26]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Jarkman S, Kato M, Bragadottir R (1998) Effects of pituitary adenylate-cyclase activating polypeptide on the direct-current electroretinogram of the rabbit eye. Ophthalmic Res. 30: 199-

206.

2. Oshika T, Nagata T, Isii Y (1998) Adhesion of lens capsule to intraocular lenses of polymethylmethacrylate, silicone, and acrylic foldable materials: an experimental study. Br. J. Ophthalmol 82: 549-553.
3. 鈴木佳奈江, 沖坂重邦, 中神哲司 (2000) 結膜貯留嚢胞形成における炎症細胞浸潤の関与. 日眼誌 104: 170-173.

インパクトファクターの合計 小計 10年度 [2.71] 11年度 [0]

- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
 1. 渡邊郁緒 (1998) カラー&イラスト 臨床眼科ハンドブック. メディカルブックサービス.
 2. 渡邊郁緒 (1999) 眼底出血. 今日の治療指針1999年版. 医学書院.
 3. 永田豊文 (1999) 眼内レンズ挿入眼における色収差. Ophthalmic Times Japan 12: 14.
 4. 中神哲司 (1999) 今日の主題 マスト細胞 翼状片. 臨床検査 43: 778-780.
 5. 渡邊郁緒 (2000) 眼精疲労. 今日の治療指針2000年版. 医学書院, 2000.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
 - 1. Masuda K, Ueno M, Watanabe I (1998) A case of frosted branch angitis with yellowish-white placoid lesions: Fluorescein and indocyanine green angiography findings. Jpn J. Ophthalmol. 42: 484-489.
 - 2. 山崎里佳, 佐野佳世子, 松島差都子, 青沼秀実, 渡瀬誠良, 池田宏一郎 (1999) 再発を繰り返した両眼性網膜中心動脈分枝閉塞症の1例. 眼臨 93: 404-407.
 - 3. 丸山友香, 高橋浩基, 林 秀行, 高良由紀子, 飯野和美 (1999) 原田病へのステロイド全身投与後にインスリン依存型糖尿病を発症した1例. 臨眼 53: 551-554.
 - 4. 久保田滋之, 川村洋行, 加藤 勝 (1999) 強い髄膜炎症状, 内耳症状を伴ったVogt-小柳病の1例. 眼臨 93: 1009-1012.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
- D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(6) 国際学会発表

- 1. Nagata T, Kubota S, Watanabe I, Aoshima S: Simulation of the effects of chromatic aberration on a retinal image in pseudophakic eyes. ARVO Annual Meeting, May 1999,
- 2. Akeo K, Nakagami T, Watanabe I, Amaki S, Hiramitsu T: The expression of glyceraldehyde 3-phosphate dehydrogenase and glutathione peroxidase in bovine retinal pigment epithelial cells in vitro by UV-B and hypoxia exposure. ARVO Annual Meeting, May 1999.

4 特許等の出願状況

	平成10年度	平成11年度
特許取得数（出願中含む）	0件	0件

[平成10年度]

[平成11年度]

5 医学研究費取得状況

	平成10年度	平成11年度
文部省科学研究費	0件 (万円)	0件 (万円)
厚生省科学研究費	0件 (万円)	0件 (万円)
他政府機関による研究助成	0件 (万円)	0件 (万円)
財団助成金	0件 (万円)	0件 (万円)
受託研究または共同研究	0件 (万円)	0件 (万円)
奨学寄附金その他（民間より）	0件 (万円)	0件 (万円)

[平成10年度]

- (1) 文部省科学研究費
- (2) 厚生省科学研究費
- (3) 他政府機関による研究助成
- (4) 財団助成金
- (5) 受託研究または共同研究

[平成11年度]

- (1) 文部省科学研究費
- (2) 厚生省科学研究費
- (3) 他政府機関による研究助成
- (4) 財団助成金
- (5) 受託研究または共同研究

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

[平成10年度]

[平成11年度]

7 学会活動

	平成10年度	平成11年度
招待講演回数	1件	1件
国際・国内シンポジウム発表数	0件	1件
学会座長回数	1件	2件
学会開催回数	0件	0件
学会役員等回数	0件	0件

[平成10年度]

- (1) 学会における特別講演・招待講演
- (2) 国際・国内シンポジウム発表
- (3) 座長をした学会名
- (4) 主催する学会名
- (5) 役職についている学会名とその役職

[平成11年度]

- (1) 学会における特別講演・招待講演
渡邊郁緒: 網膜の光障害-過ぎたるは及ばざるがごとし-. 名古屋大学眼科集談会, 1999.
渡邊郁緒: 網膜色素変性とその類縁疾患-最近の臨床, 基礎研究の動向について-. 1999.
渡邊郁緒: 小児の眼疾患とのかかわり-40年を振り返って-. 静岡県小児眼科学研究会, 2000.
- (2) 国際・国内シンポジウム発表
永田豊文: 小切開白内障手術の理論と実際. 日本眼科学会総会. 1999.
- (3) 座長をした学会名
東海眼科学会
日本中部眼科学会
- (4) 主催する学会名

(5) 役職についている学会名とその役職

渡邊郁緒: 日本眼科学会誌編集委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成10年度	平成11年度
学術雑誌編集数	0件	0件

[平成10年度]

[平成11年度]

9 共同研究の実施状況

	平成10年度	平成11年度
国際共同研究	0件	0件
国内共同研究	0件	0件
学内共同研究	0件	0件

[平成10年度]

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

(3) 学内共同研究

[平成11年度]

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成10年度	平成11年度
産学共同研究	0件	0件

[平成10年度]

[平成11年度]

11 受賞(学会賞等)

[平成10年度]

[平成11年度]

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 網膜光障害の研究

網膜光障害の発生機序および防御法を、形態学的および電気生理学的に検討した。青沼秀実講師は、ラット網膜では、光照射により主に視細胞がアポトーシスをきたすことを形態学的に示した。増田光司助手は、ラットでの網膜電図記録により、強力青色光の障害惹起閾値は視細胞より網膜色素上皮の方が低いことを示した。川野敏夫助手および加藤勝助教授は、家兎網膜では強力白色光および強力青色光により視細胞に対し網膜色素上皮優位の障害が生じること、また強力白色光による障害はNO合成酵素阻害薬により軽減されることを示した。畑徳昌助手は、ラットでの網膜電図記録により、カテキンが網膜光障害に対して防御効果を持つ事を示した。

2. 眼内レンズの光学特性の研究

永田豊文講師は、パーソナルコンピュータにより各種シミュレーションを行い、形状および素材の異なる眼内レンズの、色収差や球面収差などの光学特性を明らかにした。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

網膜光障害について、実験動物を用い、形態学的および電気生理学的に、発生機序や防御法について継続的に研究を行った。臨床における加齢黄斑変性などの網膜光障害の発生メカニズムや防御法への応用が期待される。

15 新聞、雑誌等による報道